

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.41(94例)で、先週(1.59)に比べ増加しています。今後の動向に御注意下さい。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は1.41(55例)です。第28週(7月11日～7月17日)をピークに減少した後、9月以降横ばいとなっています。
京都市衛生環境研究所において、手足口病の検体から分離されたウイルスは、第31週(8月1日～8月7日)まではコクサッキーウイルスA6型(CA6)が93%を占めていました。しかし、第32週以降はCA6は分離されず、コクサッキーウイルスA9型、A10型、コクサッキーウイルスB3型、B4型が分離されています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.33(13例)で、先週(0.23)に比べ増加しています。例年12月にかけて増加する傾向がありますので、今後の動向に御注意下さい。

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

平成23年7月から9月末までの報告数は、AIDS患者2例、HIV感染者3例の計5例で、すべて30歳代、男性です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 3例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 408例(肺結核 204例, その他結核 76例, 潜在性結核感染者 128例)うち喀痰塗抹陽性 115例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例(第46週追加分)【1月以降の累積報告数 20例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.08	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.41	94
	② 手足口病	1.41	55
	③ 水痘	1.13	44
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.64	25
	⑤ 突発性発しん	0.44	17
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

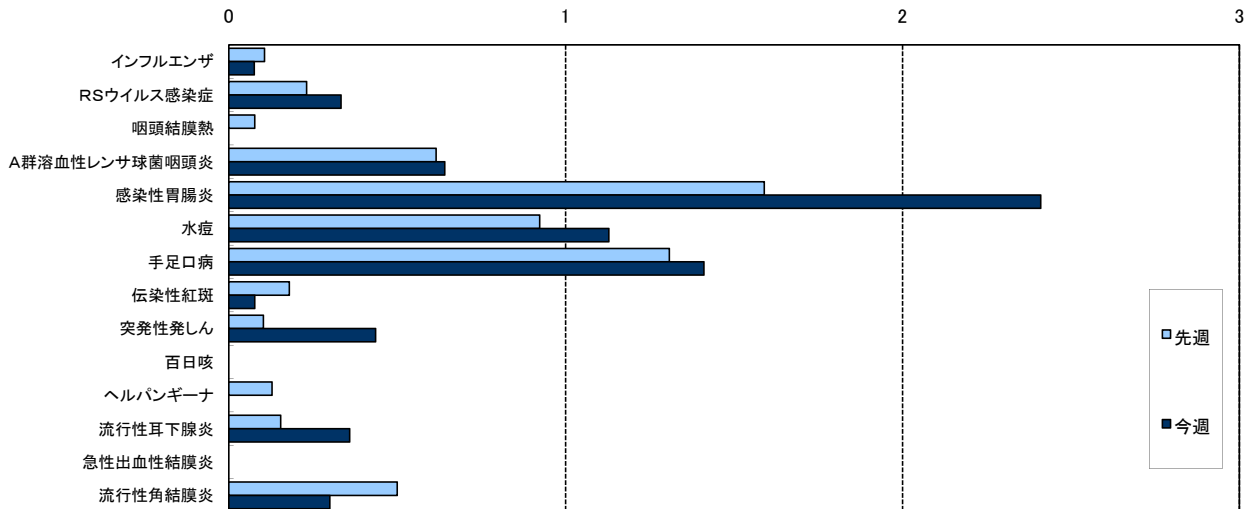
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

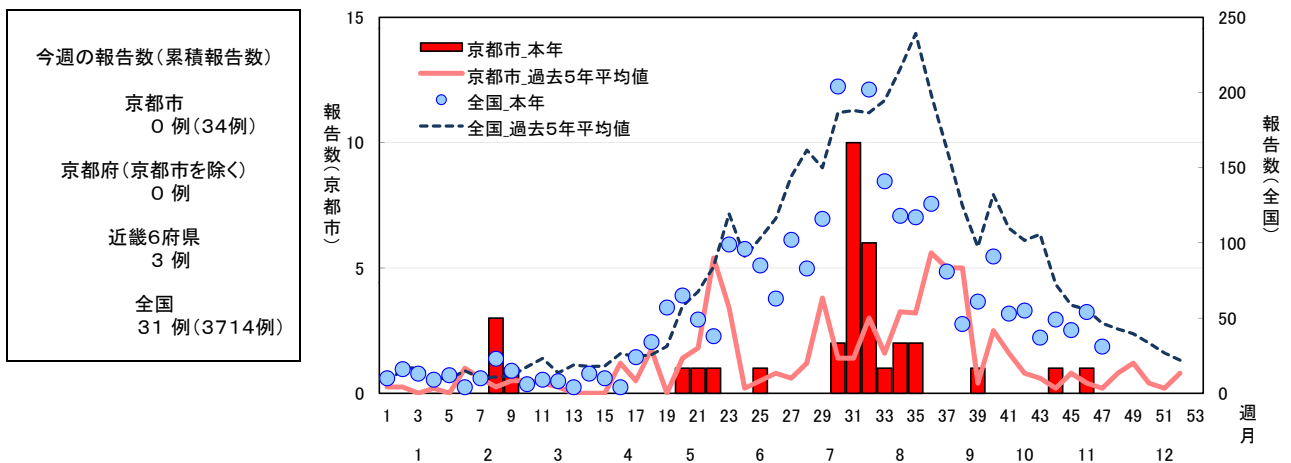
(注)京都市のデータは、平成23年12月1日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第47週)と先週(第46週)の定点当たり報告数の比較

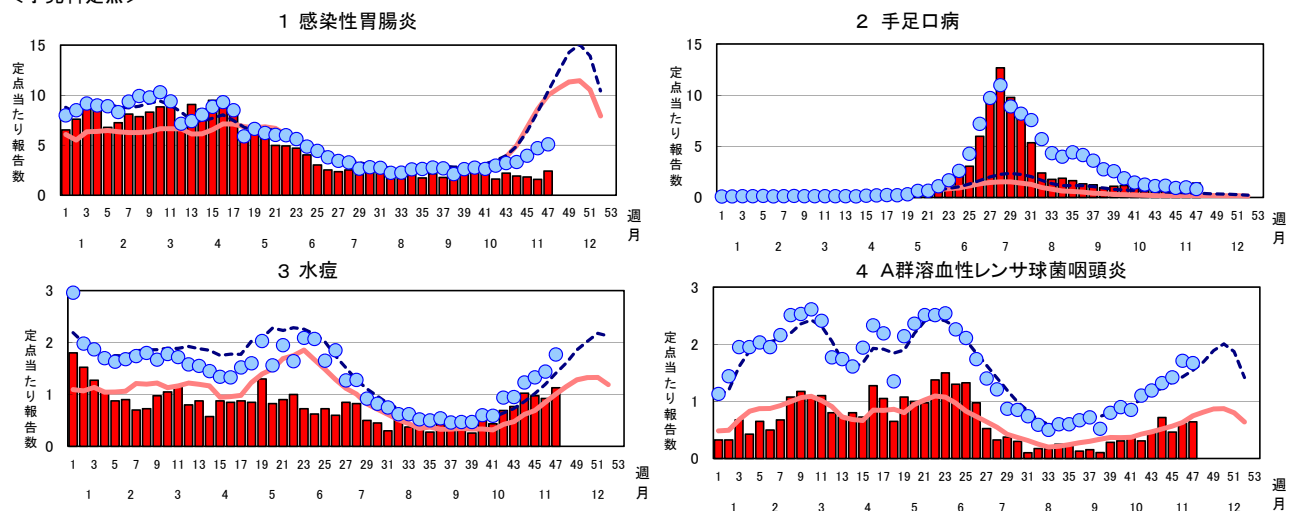


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

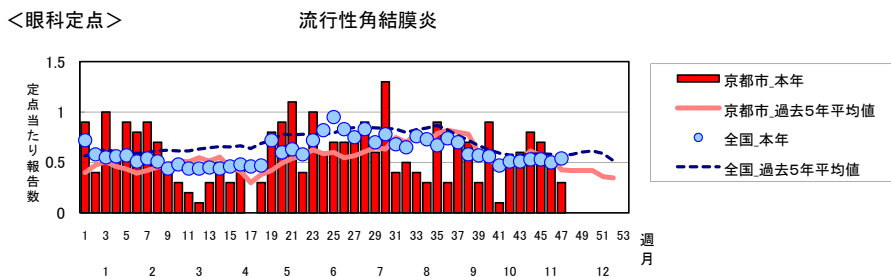


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第47週(11月21日～11月27日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

平成23年7月から9月末までの報告数は、AIDS患者2例、HIV感染者3例の計5例で、すべて30歳代、男性です。推定感染経路は、すべて性的接触(異性間3例、同性間2例)となっています。推定感染地域は国内4例、国外(タイ)1例です。

平成23年1月から9月末までの累積報告数は11例(AIDS患者4例、HIV感染者7例)で、すべて男性です。推定感染経路は、性行為感染が8例(異性間4例、同性間3例、不明1例)、不明が3例です。

平成12年以降の累積報告数は180例で、性別は、男性167例(92.8%)、女性13例(7.2%)となっています。推定感染経路は、性行為感染が139例で、後天性免疫不全症候群全体(180例)の77.2%を占めています。中でも、同性間の性行為感染が81例で最も多く、全体の45%を占めています。

年次別報告数の推移

報告年	総数	AIDS患者	HIV感染者	男	女
平成12年	6	3	3	5	1
平成13年	6	2	4	6	0
平成14年	9	4	5	8	1
平成15年	11	2	9	11	0
平成16年	21	2	19	18	3
平成17年	9	3	6	9	0
平成18年	25	8	17	23	2
平成19年	22	7	15	19	3
平成20年	21	6	15	18	3
平成21年	22	10	12	22	0
平成22年	17	6	11	17	0
平成23年(1～9月)	11	4	7	11	0
総計	180	57	123	167	13

推定感染経路別 年次別報告数の推移

